

令和6年度 中央区立 中央小学校 自己評価報告書

学校名： 中央区立中央小学校

所在地：中央区湊1-4-1

校長名： 山本 有子

児童数 329名 学級数 12学級 教員数 18名 職員数 1名

本校では重点目標として、「1 人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」、「2 児童の学力向上」、「3 児童の体力向上」の3点を掲げて教育活動を行っています。これらについて、教員の自己評価を行うとともに、令和6年12月から令和7年1月にかけて、保護者・児童（4～6年生）による学校評価アンケートを実施しました。保護者による学校評価アンケートの回収率は、40.4%（児童数329名、保護者回答数133件）でした。

1 重点目標の達成状況及び取り組み状況

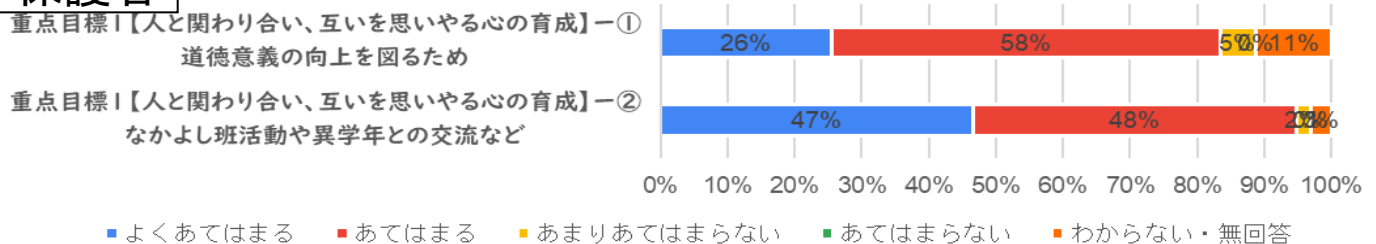
重点目標1～3の3項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的な評価の合計を平均すると、保護者は88.9%、教員は97.2%、児童（4～6年生）は95%となりました。以下、重点目標ごとの結果です。

〈グラフ中の色と内容〉

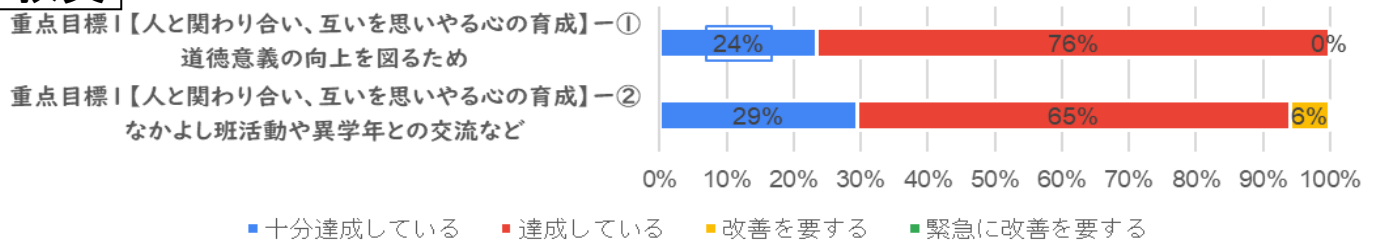


（1）重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」

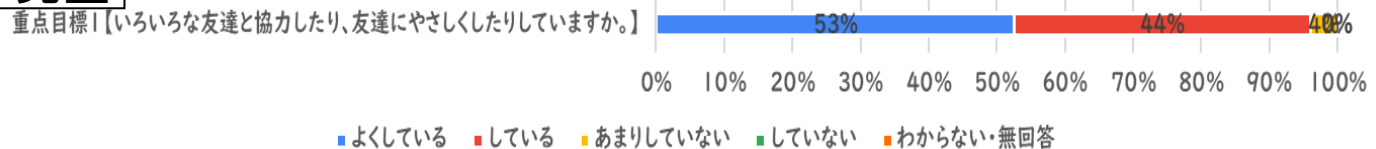
保護者



教員



児童



重点目標1「人と関わり合い、互いを思いやる心の育成」の設問①および②について、ほぼ90%以上の保護者と教員から「よくあてはまる（十分達成している）」「あてはまる（達成している）」の肯定的な評価をいただいています。また、児童への同様の質問項目「友達と協力したりやさしくしたりしていますか。」につ

いては、97%から「よくしている」「している」の肯定的な回答が出ています。今年度も、なかよし班活動や勤労奉仕体験などの縦割りによる活動や幼稚園との交流活動などが予定どおりに実施できました。今後も、子どもたちの思いやりの心の育成に向けて、活動の工夫をさらに進めます。

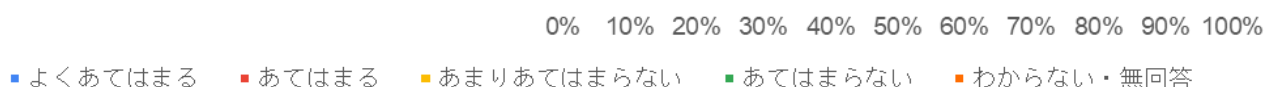
「特別の教科 道徳」を含めた道徳教育については、「よくあてはまる・あてはまる」の回答が84%となっており、これは昨年度の84%と全く同様の結果となっています。教員の回答は100%と高いことから、引き続き学校全体での道徳教育について重点を定め、道徳科の授業の充実もより一層図ってまいります。さらに、道徳科の授業の理解を得られるよう、道徳授業地区公開講座の参観資料等の工夫なども続けていきたいと考えています。

(2) 重点目標2「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」

保護者

重点目標2【確かな学力の保障と学習意欲の喚起】－①学力向上プランに基づく授業を推進

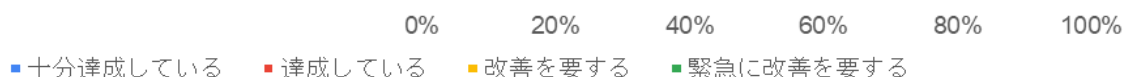
重点目標2【確かな学力の保障と学習意欲の喚起】－②タブレットの有効かつ継続的な活用など



教員

重点目標2【確かな学力の保障と学習意欲の喚起】－①学力向上プランに基づく授業を推進

重点目標2【確かな学力の保障と学習意欲の喚起】－②タブレットの有効かつ継続的な活用など



児童

重点目標2【チャレンジタイムや授業での学習にまじめに取り組み、学力を高めようとしていますか。】

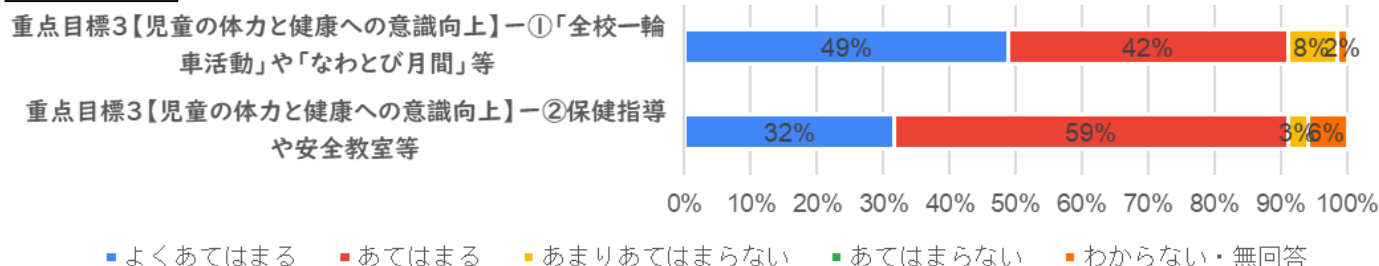


重点目標2「確かな学力の保証と学習意欲の喚起」でも、82%以上の肯定的な回答をいただきました。重点目標2の設問①については、「学力向上プランに基づく授業」を推進し、分かりやすい授業に努めているものの、保護者の評価では、「あまりあてはまらない」と「分からない」が昨年度の10%とほぼ同様の回答で11%となっており、否定的な意見も出ています。教員の評価は、全員が肯定的な回答をしています。児童へのアンケート「学習にまじめに取り組み、学力を高めようとしていますか。」については、90%が「よくしている」「している」との回答で、「あまりしていない」「していない」が10%です。今年度の各種学力状況調査において、本校の4～6年の子どもたちの平均点は、全国でもトップクラスの東京都の中でもさらに上位の中央区17校の中で平均以上を獲得しています。各種学力調査の結果が区内でも上位校に位置する結果と

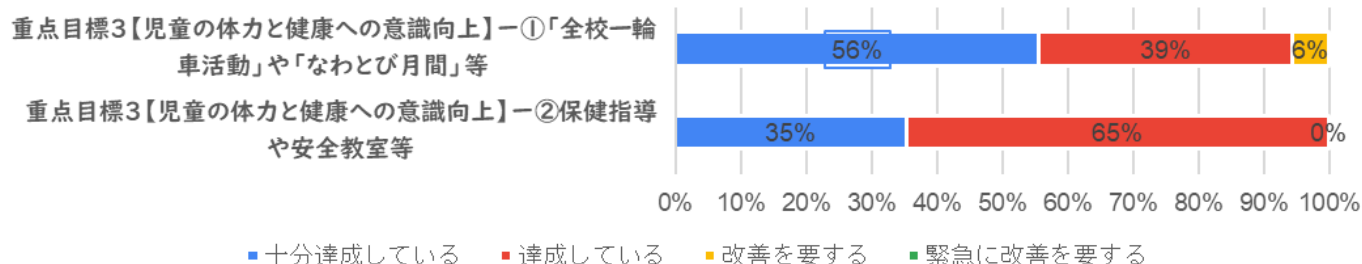
なっていることを踏まえると、学習力の向上に向けた取り組みの成果が、保護者の方に見えづらい現状があるようです。本年度は「教科担任制」を３年生以上で取り入れ、学年内で国語や理科、社会、体育などを教科担任が指導を行いました。下位層児童へのボトムアップを図るため、さらに授業改善に取り組みながら、学力調査等の結果を保護者の方に伝える方法も改善し、家庭と連携した学習環境を構築してまいります。そして、今後も「チャレンジタイム（朝学習）」や「夏休み学習広場」など、基礎・基本の定着を図る取り組みを継続させ、家庭学習についても保護者と連携をとりながら、「基礎・基本の学力の定着」を図っていきます。

（３）重点目標３「児童の体力と健康への意識向上」

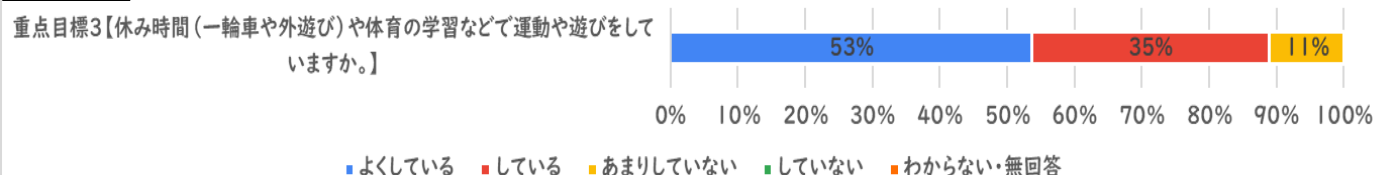
保護者



教員



児童



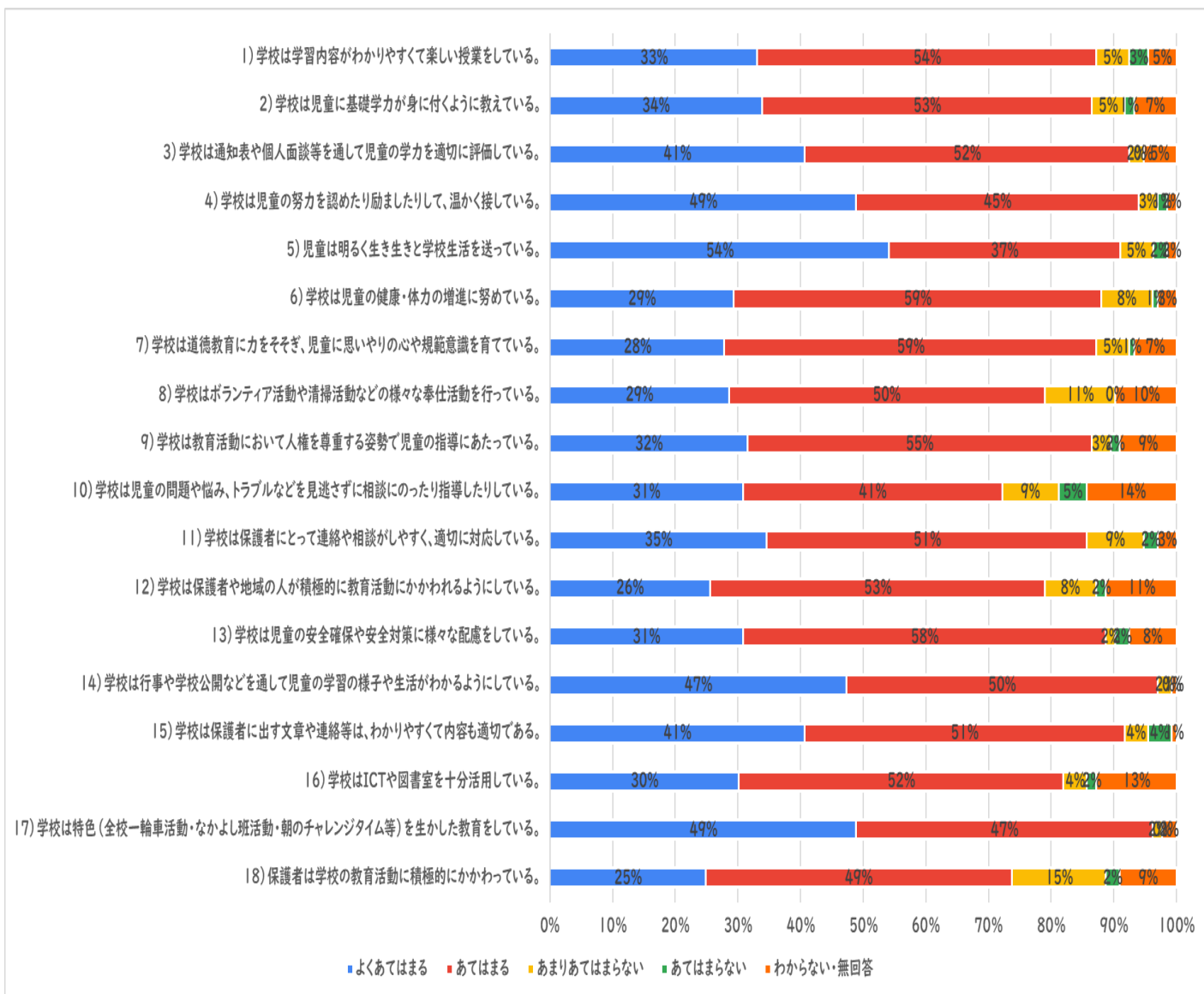
重点目標３「児童の体力と健康への意識向上」では、平均して９３％以上の肯定的な回答をいただきました。本校の特色である「全校一輪車活動」を含めた様々な体育的活動に対してご理解をいただいていると考えます。また、「なわとび」への取り組みについて、講師を招いた「なわとび講習会」を実施しました。教員の回答では「十分達成している」「達成している」の回答がほぼ１００％でした。「一輪車」や「なわとび活動」に取り組む上で、さらに児童が主体的に体力づくりに取り組めるよう検討していきます。

児童のアンケート結果では、「休み時間（一輪車や外遊び）や体育の時間などで運動や遊びをしていますか。」の項目に、８８％の児童が「よくしている」「している」と回答しており、昨年度と同じ結果でした。さらに、全国体力調査の結果のほとんどで全国平均を上まわっていることから、体力づくりへの取り組みの成果が表れているので、引き続き工夫をしてまいります。また、「していない」の否定的な回答をした児童は０名でしたが、今後は、「あまりしていない」と回答した１１％の児童への指導について、工夫を考えていく必要があります。

ます。一人ひとりの子どもが、自分の健康について考え、すすんで体力づくりに励むことができるよう、体育的な活動をさらに工夫していきます。

2 重点目標以外の評価における達成状況及び達成のための取り組み状況

<保護者アンケートによる評価>



上の(1)～(18)のグラフ全体から「よくあてはまる（青色）」の評価に注目すると、(5)「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。」については、「よくあてはまる」が54%で過半数を超えており、児童が毎日楽しく登校していると保護者の方が感じておられることが分かりました。また、「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的な回答が高いのは、(14)「学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。」の97%、(17)「学校は特色（全校一輪車活動・なかよし班活動・朝のチャレンジタイム等）を生かした教育をしている。」の96%となっており、行事や特色ある活動について、保護者の方にご理解をいただいていることも分かりました。

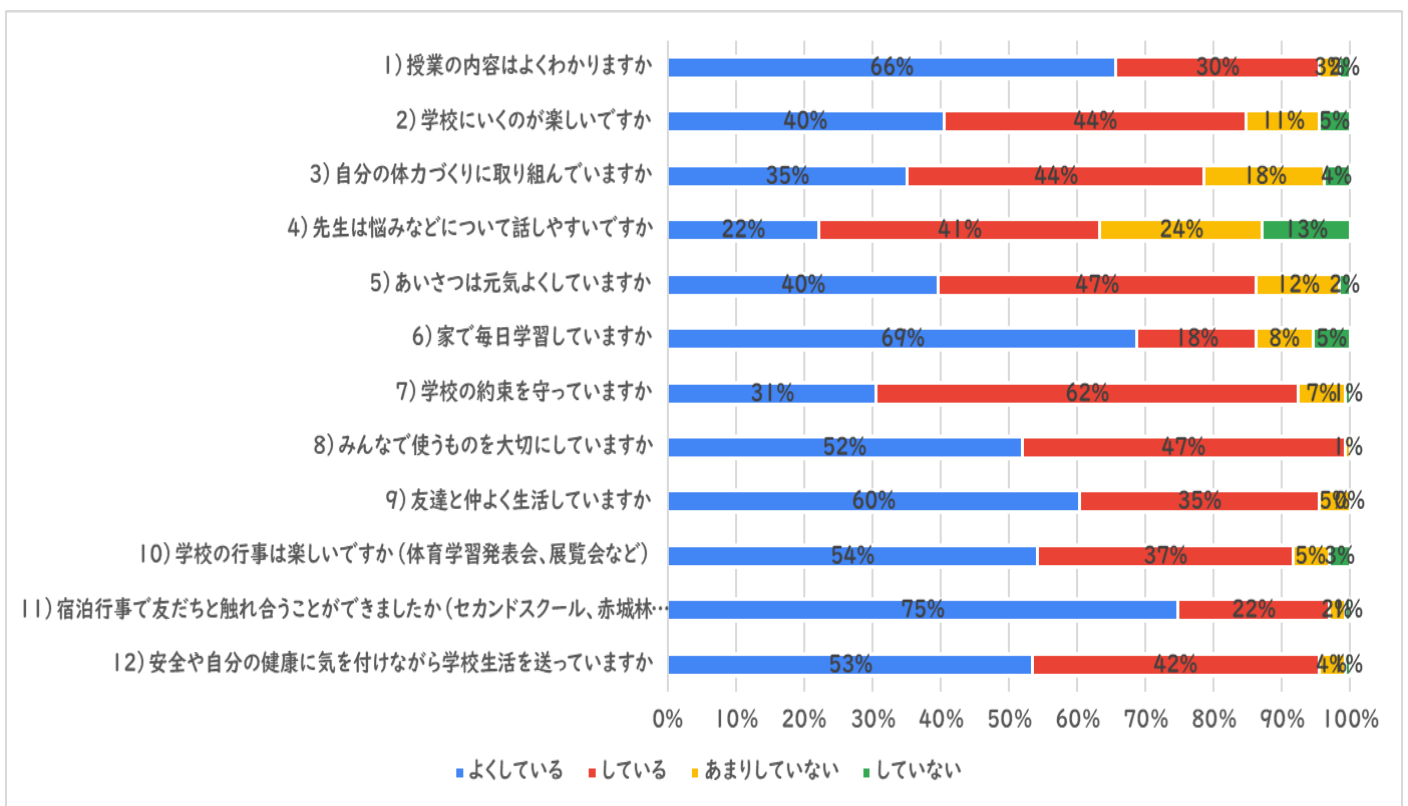
18項目中、15の項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が昨年度と同様に80%以上、6項目が90%を超えるという高評価をいただいております、昨年度よりさらに1項目分の評価が上がっています。

課題としては、(10)「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。」で肯定的評価は72%でしたが、14%の方から「わからない・無回答」といただいております。

児童のトラブルや悩みについて学校でどのように対応をしているのか、不透明な部分もあることが見えます。実際には、担任や専科教員などに言えなくても、スクールカウンセラーに相談をしている児童もいます。今後も、スクールカウンセラーとの連携を強化したり複数の教員で対応したりしながら、児童一人ひとりに応じた相談体制や指導体制を整備し、保護者の皆様からの信頼をさらに得ていきたいと考えています。

また、(18)「保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。」の項目は、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の否定的な回答が17%と最大になっています。保護者の方には、今後も学校だよりや各学年だより、学校ホームページなどで本校の教育活動について発信をすることでご理解をいただきながら、保護者会や個人面談、学校公開、学校行事などを通じて、子どもたちの成長に向けて関わっていただけるよう呼び掛けるとともに、学校行事のあり方について工夫をしながら、必要な際は細かに保護者への連絡を取るなどしていききたいと考えています。

＜児童アンケートの状況より＞



4～6年児童によるアンケート全体の評価では、昨年度と同じく12項目中、10項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の評価の合計が80%以上となり、その内7項目で90%以上という高評価となりました。

特に、(8)「みんなで使うものを大切にしている」、(9)「友だちと仲良くしている」、(11)「宿泊行事(セカンドスクール・赤城林間学校・本栖移動教室)で友達とふれあうことができたか」、(12)「安全や健康に気を付けながら学校生活を送っている」などでは95%以上の高評価となりました。日頃の学校生活において児童自身の達成感が表れていると捉えることができます。中でも(8)「みんなで使うものを大切にしている」については、99%が肯定的な回答で、「あまりしていない」と答えたのは1名でした。区から貸与されているタブレット端末を丁寧に扱ったり学校施設をきれいに使ったりしており、この意識が醸成されているようです。

気になるところでは、(4)「先生は悩みなどについて話しやすい」の項目で肯定的な評価が63%と低いのですが、昨年度と比べると5ポイントほど上がっています。その要因として、教員とじっくり語り合う時間が少なく、児童からも、なかなか相談ができなかったのではないかと考えられます。アンケートを実施した12

月、児童も多忙な時間を送っていたようです。次年度に向け、これまで以上に子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、時には誰かに悩みを相談し、つらい気持ちを和らげたり現状の解決策を知ったりすることができるよう、教育相談の体制をさらに整えます。

3 今後の改善方策

(1) 教員の指導力を高め、授業改善を行い、児童の基礎・基本の力を定着及び学力・体力の向上により、児童の達成感を高める。

- ・校内研究の充実、算数少人数指導体制の充実、チャレンジ（朝学習）の充実、体育的な活動の充実、I C T機器の活用、I C Tも活用した家庭学習との連携強化 など
- ・教員の働き方改革の着実な取り組みにより、教科担任制を取り入れながら授業や子どもと向き合える時間を増やす。

(2) 一人ひとりの子どもの状況を把握し、子どもたち同士の人間関係を良好にするために、人権尊重を基本とする教育活動を充実させる。

- ・思いやりを基本とする学級づくり、道徳科の授業の充実、子どもたちの活躍の場の設定、3つの「あ」（あいさつ、あつまり、あとしまつ）の励行 など
- ・生活指導や教育相談に対しては、未然防止も含め「迅速・誠実・丁寧」を大切にした対応に努める。
- ・スクールカウンセラーや担任以外の教員等、複数の教職員で児童の育成・対応にあたる体制づくり。

(3) 保護者・地域との連携を深め、学校・保護者・地域が一体となって教育活動を進める。

- ・学校公開、学校行事、特別授業などでの地域・保護者との関わりと情報発信の充実
- ・学校だより、学年だより、Google classroom、学校ホームページ、タブレット活用などで発信の充実
- ・保護者会、個人面談、教育相談などでの情報交換の充実